

みどりアップを 見に行こう ツアー

旅のしおり



横浜みどりアップ計画
マスコットキャラクター
横浜みどりアップ **葉っぴー**

横浜みどりアップ **葉っぴー**

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第18回調査部会
2018年8月25日



お願いと注意事項

- ・体調管理に気を付けて下さい。
もし体調の不良を感じたときは、職員にお声がけください。
- ・現地で歩道なども歩きます。
車には注意して、道路を横断するときなどは、職員の指示に従ってください。
- ・広報に使用するため写真撮影を行います。
ご都合の悪い方は、あらかじめお申し出ください。
- ・携帯電話はマナーモードに設定し、ツアー中の通話をご遠慮ください。



『横浜農場』とは、
食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、
横浜らしい農業全体を農場として見立てた言葉です。

本日のテーマと見学先

集合 9時00分



(バス移動)

見学先その1 9時20分～

- まちの水田を守っている現場

→みたけっ子田んぼ 6 ページ

(バス移動)

見学先その2 10時00分～

- 農とふれあえる現場

→坂田農園 10 ページ

(バス移動)

意見交換会 11時20分～

- 横浜市 山内地区センターにて

解散 12時00分

- **横浜の緑を次世代にひきついでいくための計画です**

横浜市は、大都市でありながら、私たちの生活の身近な場所に、森や農地などの緑の環境が広がっています。この環境を次の世代に引き継いでいくため、さまざまな取組を展開しています。

平成 21 年度からは、「横浜みどり税」を財源の一部に活用した「横浜みどりアップ計画」を推進しています。

- **横浜みどりアップ計画（計画期間：平成 26-30 年度）の目指すもの**

横浜みどりアップ計画では、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を理念に、市民の皆さんや事業者の方々と一緒に協力しながら、「森」「農」「緑化」の3つの分野で取組を進めています。

【5年間の目標】

1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します

緑地保全制度の指定による樹林地の担保量が増加、水田の保全面積が増加、市街地で緑を創出する取組が進展 など

2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます

森の保全管理など生物多様性に配慮した取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など

3 市民と緑とのかかわりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

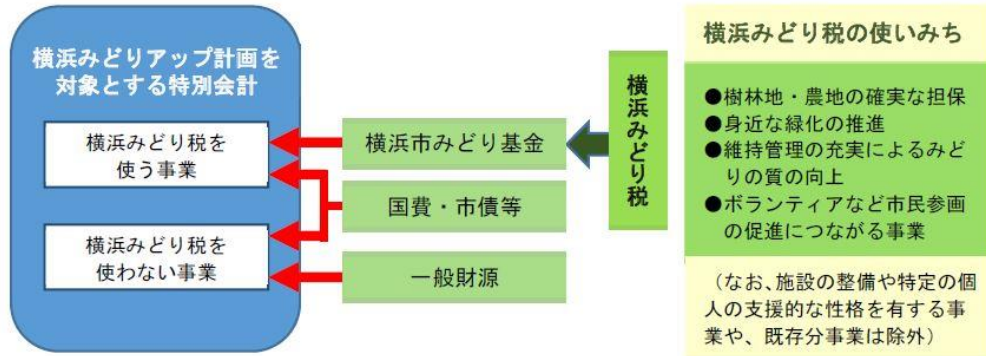
森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

● 計画を進めるための財源のしくみ「横浜みどり税」

横浜みどり税は、緑の保全・創造に取り組むための安定的な財源として、市民の皆さんに平成 21 年度からご負担いただいているものです。

横浜みどり税は、横浜みどりアップ計画に使い道が限定され、また、「横浜みどり基金」としてほかの財源からは明確に区別されています。

横浜みどりアップ計画では、横浜みどり税だけでなく、他の財源（一般財源、国費・市債など）も使われていますが、「特別会計」として他の事業から分離して管理されています。



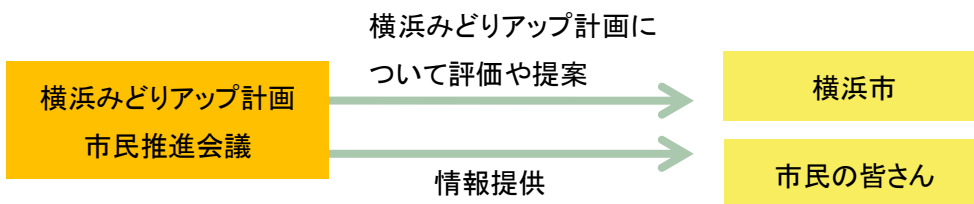
【表】平成 26-30 年度の横浜みどり税の税率と期間

対象	税率	延長期間
個人	市民税の均等割に上乗せ 900 円／年※	平成 26 年度から平成 30 年度
法人	市民税の年間均等割額の 9%相当額／年	平成 26 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの間に開始する事業年度分

※所得が一定金額以下で市民税均等割が課税されない方は課税対象から除く

● 横浜みどりアップ計画市民推進会議とは

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民の皆さんへ情報提供を行う、市民参加の組織です。公募市民や学識経験者、関係団体、町内会代表の計 16 名で活動しています。本日の「みどりアップを見に行こうツアー」はその調査部会として、横浜みどりアップ計画の事業が活用されている現場を調査し、現場で活動されている方や、参加した方の声を委員が直接聞くために実施しているものです。



※会議の開催模様や、広報誌・報告書はホームページでも見るすることができます。

[市民推進会議](#) [検索](#)

● 横浜みどりアップ計画で目指す横浜の姿 ～緑とともにある市民の暮らし～



● 横浜みどりアップ計画の取組 〈平成 26-30 年度〉



取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ**森**を育む



施策 1 樹林地の確実な保全の推進

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

森を持っている人と森を守る約束をする／必要に応じて、市が森を買い取る／
保全した森を整備する

施策 2 良好な森を育成する取組の推進

事業② 生物多様性・安全性に配慮した森づくり

動物や生き物にとっても住みやすい森、安全な森をつくる／間伐材の有効利用

事業③ 森を育む人材の育成

森づくり活動団体への研修／ボランティアの研修や情報発信／団体への道具貸出しなど

施策 3 森と市民をつなげる取組の推進

事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

イベント開催や人材育成／広報、ガイドマップ、ウェルカムセンターなどでの情報発信



取組の柱 2 市民が身近に**農**を感じる場をつくる



見学先
その1

施策 1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

水田を持っている人と約束をする／井戸の設置を手伝う／農地の利用促進など

見学先
その2

事業② 農とふれあう場づくり

収穫体験／区画貸し農園／横浜ふるさと村の取組の充実や恵みの里などの取組推進など

施策 2 地産地消の推進

事業③ 身近に感じる地産地消の推進

直売所／青空市／情報発信・P R

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

直売所など地産地消にふれる機会をふやす／人材育成／企業などとの連携など



取組の柱 3 市民が実感できる**緑**をつくる



施策 1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進

事業① 民有地での緑の創出

制度で決められた量以上の緑化をする市民や事業者へ、緑化の費用を一部助成 など

事業② 公共施設・公有地での緑の創出

多くの市民が目にする公共施設での緑化を充実させる など

施策 2 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進

事業③ 市民協働による緑のまちづくり

地域が主体的に緑のまちづくりに取り組むことへの支援

事業④ 子どもを育む空間での緑の創出

保育園や幼稚園、小中学校での園庭や校庭の芝生等による緑化、花壇づくりなど

事業⑤ 緑や花による魅力・賑わいの創出

緑や花で、人が多く集まる都心臨海部の魅力・賑わいづくり



効果的な広報の展開

広報よこはま、交通広告の活用 など

見学先
その1

まちの水田を守っている現場
みたけっ子田んぼ（水田の保全）

- 取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる
施策1 農に親しむ取組の推進
事業① 良好な農景観の保全



● 大都市に残る貴重な水田を保全しています

横浜市には、まとまりのある農地が形作る広がりのある景観や、樹林地と田畑が一体となった谷戸景観など多様な農景観が、地域の農景観として存在しています。横浜みどりアップ計画では、都市に潤いをもたらす、これらの農景観を次世代に引き継いでいくための取組を進めています。

しかし、農地の中でも特に水田は、作物を販売しても利益がでにくいことから、宅地利用や畑への転換などにより、減少を続けています。みどりアップ計画では、現存する貴重な水田を保全するため、10年間の水稲の作付を条件に、奨励金を交付し、土地所有者がなるべく長く水田を維持できるよう取り組んでいます。



● 保全した水田が活用されています！

みたけ台小学校のある青葉区は、横浜北部にある緑豊かなまち。50年前頃に田園都市線が開通し、住宅街としてまちは発展してきました。その一方で、田んぼの面積は横浜18区の中で1番大きく、畑も2番目。谷本川、恩田川沿いには田んぼが多くあり、谷戸田もあります。

市内には、地元の農家さんの協力を得て、「環境学習農園」として、米づくりや野菜づくりを体験している小学校がたくさんあります。みたけ台小学校でも、保護者や地域の方のサポートのもと、5年生は学校の近くにある「みたけっ子田んぼ」で農家の村田さんと米づくりの体験学習をしています。みどりアップ計画では運営のための奨励金を交付し、支援しています。

「環境学習農園」について

幼稚園や小学校の近くにある農地で園児や小学生が、農家からの指導を受けながら、ダイコンやコマツナ等の野菜作りや水田での米作りなどの体験ができます。



「みどりアップQ」について

横浜みどりアップ計画市民推進会議では、「緑×まち×未来を考えよう」をテーマに、横浜みどりアップ計画市民推進会議広報誌「みどりアップQ」を発行し、横浜の緑と、市民の皆さんの活動などをご紹介します。

横浜のみどりと、そこに関わる人たちの、これまでの経験や想いを知り、一緒に課題を考えることで、より良いみどり政策のための提言に生かしています。

みたけっ子田んぼの取組は「みどりアップQ 8号」でご紹介しています！



みどりアップQ 8号表紙▲

田んぼはビオトープ

お米を生産する場としてだけではない、
水田のさまざまな役割

- ・暑い時期に気温を下げる
- ・雨水を一時的に貯めることで洪水を防ぐ
- ・地下に水を浸透させ地下水をつくる
- ・いろいろな生き物のすみかになる
- …そのほか、環境教育や食育の場として活用されることも



こんな生き物がいるよ！

▼アマガエル (緑)

クモやバッタ、ウンカなどのカメムシ類も捕食



◀アジイトトンボ

イトトンボの仲間
田んぼではウンカなど
害虫を捕食する益虫となる。



◀ヌマガエル (茶)

横浜市内のヌマガエルは
国内移入種、西日本より
野菜のポット苗などに紛れ侵入。



◀アオダイショウ

田んぼでは、ネズミやモグラ、
カエル、カモ類のヒナなどを捕食
田んぼ生態系の上位種



◀トウキョウダルマガエル

絶滅危惧種
横浜市内では生息地域が限られ希少
バッタやクモを捕食
田んぼ生態系ではサギ類など鳥類、
イタチなどの哺乳類、ヘビなど
爬虫類のエサとなる。

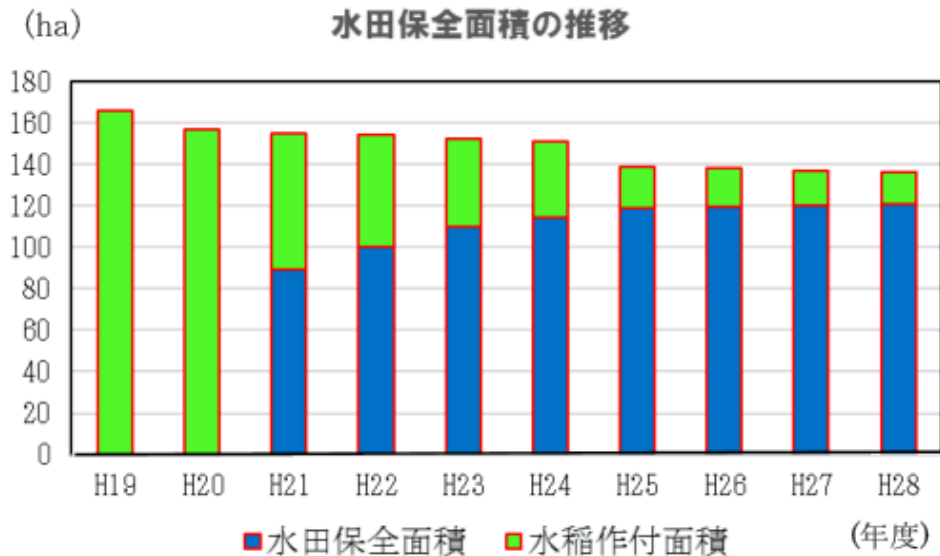


▶シャジクモ

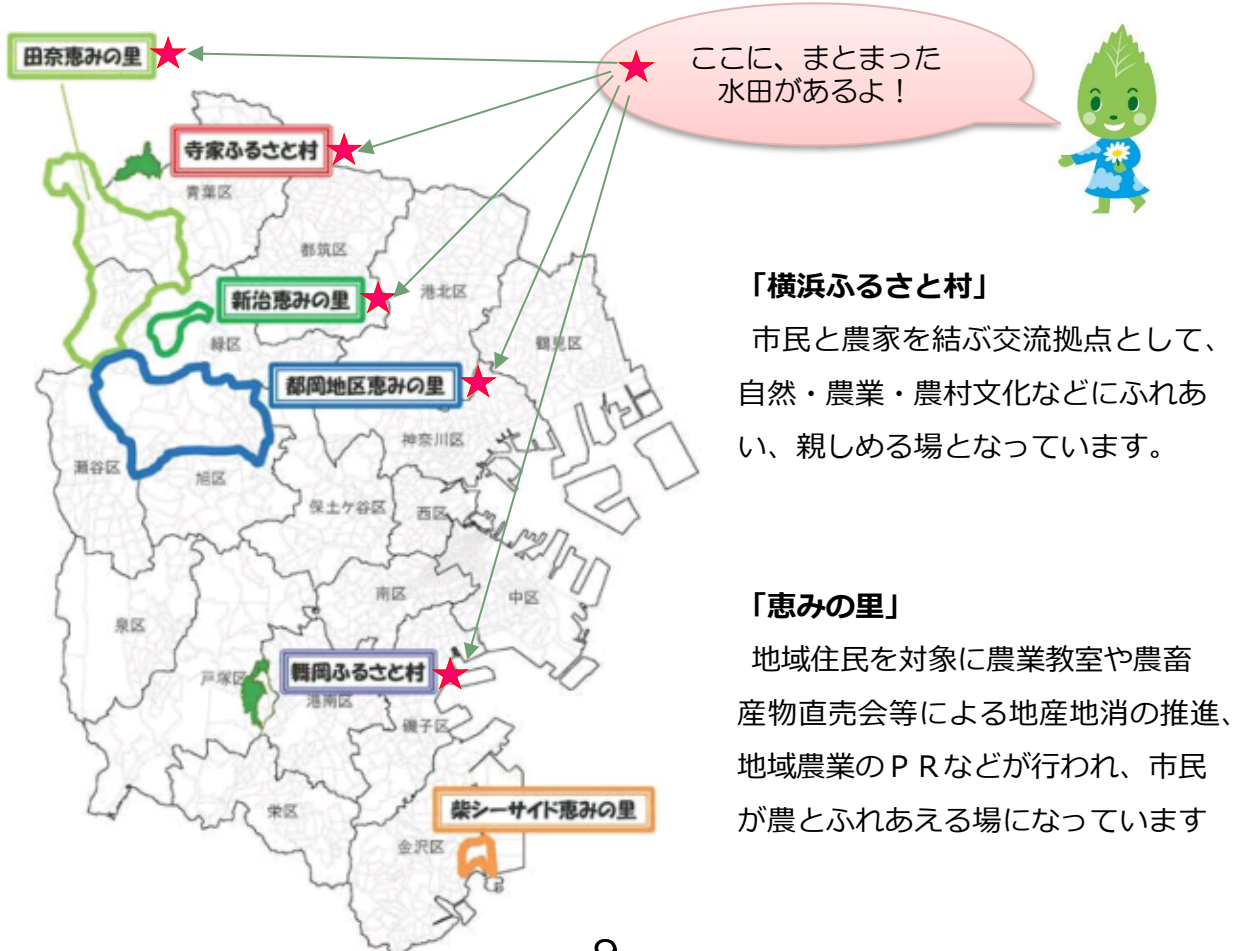


● 市内の水田を残していくために保全の取組が必要です！

横浜市内には水田が約130ヘクタールあり、そのうち119.8ヘクタールをみどりアップ計画で保全しています。市内では、青葉区・緑区の谷本川・恩田川沿い、泉区の境川・和泉川沿いに多いです。



● まとまりのある水田は、こんなところにあります！



気軽に農とふれあえる現場 坂田農園（収穫体験農園）

取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる
施策1 農に親しむ取組の推進
事業② 農とふれあう場づくり

● 市民が農にふれあえる場を増やしています

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、市民の様々なライフスタイルに応じた、農とのふれあいを楽しめる場づくりを進めています。

その中でも、気軽に楽しめる「収穫体験農園」は野菜の収穫や果物のもぎとりなどを気軽に体験することができる農園で、横浜みどりアップ計画では農園の開設に必要な施設整備等を支援しています。



● 坂田農園のさまざまな取組

坂田農園は、昭和 25 年から梨の栽培を始めました。当時は梨の栽培をする農家はほとんどなく、苗を植えてから実の収穫ができるまでに 10 年ほどかかる梨の栽培に着手するのは、かなりのチャレンジでした。有機農法にこだわり、樹上で十分に完熟させてから収穫しているため、大玉で糖度も高く、収穫体験も直売も大人気です。横浜みどりアップ計画では昨年度、収穫体験農園の梨の苗に対して支援をしています（みどり税充当）。

また、坂田農園では、浜なしを原材料とした「焼肉のたれ」や「ジャム」を季節限定で販売をしています。「焼肉のたれ」は 1 びんに使われる浜なしは 2～3 個という贅沢なたれで、ファンが多い商品です。こういった加工品は、農園内で手作りで作られており、その施設整備についてもみどりアップ計画でみどりアップ計画の中で支援しています（みどり税非充当）。



敷地内には横浜みどりアップ計画の柱2「市民が実感できる緑をつくる」取組の「名木古木の保存」の一環として、保存すべき樹木として指定したケヤキがあり、維持管理費用の一部を助成しています！



「浜なし」について

「浜なし」とはナシの品種名ではなく、横浜市で認定された果樹生産者団体の統一ブランド名です。主な品種はいわゆる「三水」と呼ばれる「豊水」「幸水」「新水」です。

「浜なし」はスーパーや青果店ではお買い求めになれません。これは、市場出荷をせず、ほぼ全量を庭先などでの直売で販売しているためです。

このため、食べごろの時期を逃さず、新鮮でおいしい果実を味わっていただくことが可能となっています。

「浜なし」栽培農家は、講習会・巡回検討会などを地区ごとに行い、品質の向上と栽培技術の習得に努め、「浜なし」の名に恥じないよう努力しています。

また、規格や出荷容器などを統一し、「浜なし」ブランドのよりいっそうの定着に努めています。



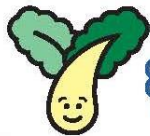
浜なし

まだまだある収穫体験

横浜には、果物のもぎとりや野菜の収穫体験、お米づくりなど、気軽に農体験ができる場所がたくさんあります。ぜひ、横浜で農体験をしてみませんか。

農園の場所等、詳細は市のホームページをご覧ください。 横浜市 収穫体験農園

検索



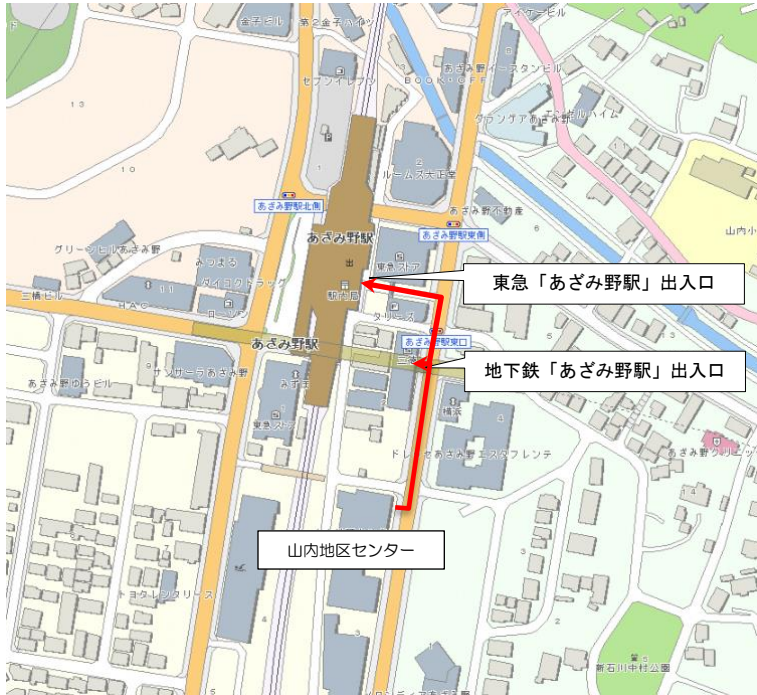
もぎとり収穫カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
なし（幸水）					—							
なし（豊水）					—	—						
ぶどう					—							
かき							—					
くり						—	—					
キウイ								—				
みかん								—	—			
うめ			—									
ブルーベリー				—	—							
イチゴ（ハウス）	—										—	—
トマト（ハウス）			—	—								
ジャガイモ			—	—								
サツマイモ							—	—				
露地夏野菜				—	—							
露地秋野菜								—	—			

市民推進会議広報誌
「みどりアップQ」11号では
いちごの収穫体験農園を
委員がレポートしています！



山内地区センターからあざみ野駅へのご案内



- 市営地下鉄ブルーライン
または東急田園都市線
「あざみ野駅」まで徒歩3分



横浜みどりアップ計画のマスコットキャラクター

横浜みどりアップ **葉っぱ** について

プロフィール

生まれたところ	横浜の森で目覚めた
何者？	森の妖精
年齢	妖精なのでわからない
誕生日	6月20日(緑の環境をつくり育てる条例の施行日)
体重	88g (葉っぱだけに)
身長	64cm (8×8=64なので) (妖精なので、身長体重は自在に変えることができる。)
性格	普段は天真爛漫で明るい、水がなくなると元気がなくなる
好きなこと	日向ぼっこ(光合成)
チャームポイント	葉脈
特技	魔法の花で緑を増やす
仲間	色々な生き物と友達 (虫と友達なので、毛虫や青虫にも食べられない)

ご参加ありがとうございました！

